

DX戦略書

2025年2月28日 取締役会承認



東電化工業株式会社

実るほど 頭を垂れる 稲穂かな

< DX取組宣言 >

東電化工業株式会社は、急速に変化する社会環境と技術革新の波に対応し、持続可能な成長と地域社会への貢献を目指して、デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進します。

1. 業務プロセスの革新 当社は、ISO文書管理システムの導入をはじめ、クラウドを活用した情報共有の強化、ペーパーレス化の推進を通じて、業務効率の向上と品質管理の強化を図ります。これにより、顧客の多様なニーズに迅速かつ的確に対応する体制を構築します

2. 提案型企業への進化 当社は、開発研究にデジタル技術を積極的に取り入れ、品質（Quality）、コスト（Cost）、納期（Delivery）、サービス（Service）の各分野で卓越した価値を提供する「提案型企業」として進化します。市場データ・顧客データを蓄積し、それを活用して製品開発やサービス向上を図ることで、顧客満足度の向上を追求します。

3. 地域社会との共生 「みんなの幸せをつくる会社」という理念のもと、地域社会に必要不可欠な存在となるべく、デジタル技術を活用した環境負荷低減やエネルギー効率化を推進し、社会環境の変化に即応した経営戦略を展開します。これにより、長期安定経営を実現するとともに、地域との共生を強化していきます。

4. 全社的なDX推進 ITによる部分最適からDXによる全体最適への移行を目指し、業務プロセスのデジタル化、システム統合、ペーパーレス化を推進します。これにより、社内の情報共有の強化や業務の自動化を進め、業務効率の向上とコスト削減を実現します。

実るほど頭を垂れる 稲穂かな

東電化工業株式会社
代表取締役社長 若泉 裕明

経営理念

感謝の心得
-創業者理念-

＜実るほど 頭を垂れる 稲穂かな＞

経営ビジョン

「The Next Challenge」というキャッチコピーのもと、新しい時代のニーズに応え、デジタル技術を活用した革新を推進する企業を目指します。日本経済や世界情勢、地球環境の変化を踏まえ、地球にやさしく且つ新しい文明社会の構築を使命と考えます。私たちはQCDSを重視しながら、データとデジタル技術を活用し、業務の効率化・品質向上・価値創造を実現する提案型企業へと進化し、「みんなの幸せをつくる会社」として成長を続けます。

私たち東電化工業は、経営ビジョンやビジネスモデル実現のために、下記のようなDX戦略を立案し全社を挙げて取り組んでまいります。

戦略① 全体最適化を目指す「プロセス革新DX戦略」

目的:営業、管理、現場の各業務をデジタル化し、全社的な業務効率化とデータ活用を推進する。

1. 営業業務の効率化とデータ活用の推進:

SFA(営業支援システム)を導入し、見積作成などの営業業務の効率化。データ入力・更新をスムーズにし、情報の一元管理を実現する。さらに、経営データの自動集計・可視化を進め、データに基づく戦略的な意思決定を支援する。

2. バックオフィス業務の簡素化と業務効率の向上:

注文書処理の負担を軽減し、業務を効率化するため、データ入力の自動化を推進する。紙ベースの業務をデジタル化し、情報の即時共有と正確性の向上を図る。

3. 事業継続性を強化するIT基盤の構築:

拠点拡張や業務の柔軟性向上に対応し、クラウド環境を活用してBCPを強化。災害・システム障害時でも業務を継続できるよう、データの安全な管理・バックアップ・迅速な復旧体制を確立する。

戦略② 人材育成と技術継承を支える「デジタル人材戦略」

目的:OJT中心の人材育成を体系化し、人事評価のデジタル化を進めることで、人材の成長と適切な評価を実現。

具体的施策:

1. 技術継承の効率化とナレッジ共有の推進:

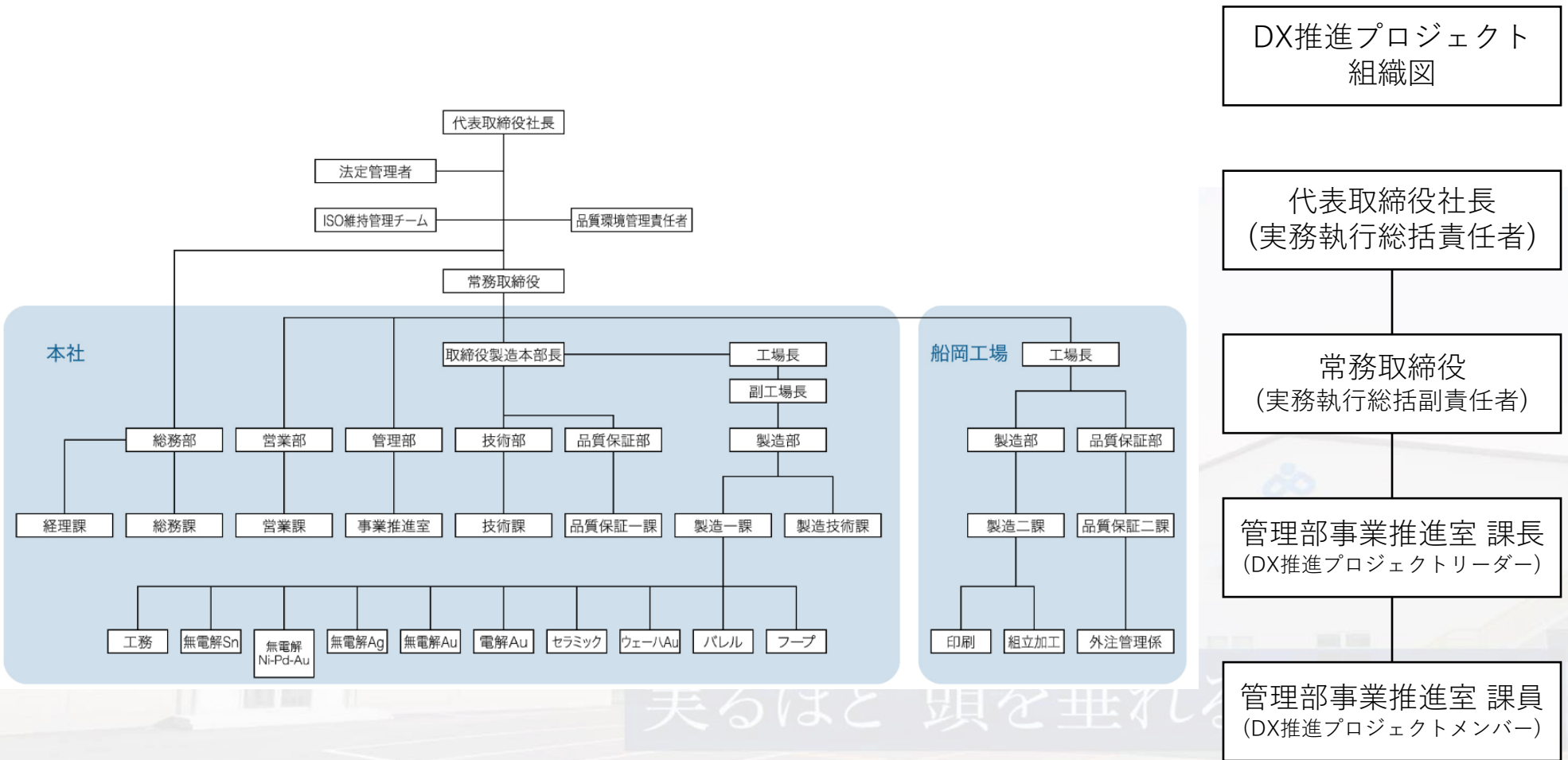
熟練者のノウハウを動画で記録・蓄積し、社内向けの教育コンテンツとして活用。誰でも必要な時に視聴できる仕組みを整え、技術伝承の標準化と教育効率の向上を図る。

2. デジタル人材の育成と情報セキュリティの強化:

PC環境やデジタルツールの活用を推進し、業務のデジタル化に対応できる人材を育成。併せて、情報管理の標準化を進め、セキュリティ研修や運用ルールの整備を通じて、全社的なセキュリティ意識の向上を図る。

DX推進体制

東電化工業株式会社は、社長（実務執行総括責任者）の直下に「DX推進チーム」を設置し、DX推進します。また、DX推進チームを中心に教育計画に基づきデジタル人材育成を行います。



※管理部にてDX推進プロジェクトを実行する。

東電化工業株式会社は、DX推進のため、前年度売上の **0.05%**を目途に当年度投資します。

※ただし、売上が大幅に下がった場合はその限りではない。

デジタル環境整備の推進を通じて、顧客満足の上昇と業務効率の最大化を図るため、全社的なDXを目指します。情報の共有や業務効率化を支えるデジタル基盤を強化することで、部分最適から全体最適への移行を進め、地域社会への貢献と企業価値の向上に寄与します。

実るほど 頭を垂れる 稲穂かな

KPI（目標値）

DX戦略の達成状況を測る指標として下記を定めます。実行計画を立案したうえで、取り組みを行い、各部署ごとに目標値の達成状況を月1度評価を行いながら目標達成できるようPDCAサイクルを回していきます。

DX戦略	取り組み内容	時期	目標値
全体最適化を目指す「プロセス革新DX戦略」	営業業務の効率化とデータ活用の推進	2026年3月	SFA導入後、見積作成時間を50%短縮 経営データの可視化率80%以上
	バックオフィス業務の簡素化と業務効率の向上	2027年12月	注文書のデジタル化率90%以上
	事業継続性を強化するIT基盤の構築	2025年9月	文書管理システムのクラウド化
持続可能な現場を目指す「安全性と生産性向上DX戦略」	技術継承の効率化とナレッジ共有の推進	2027年3月	・トレーサビリティに基づいた製造作業 手順のデジタル化を50%以上達成
	デジタル人材の育成と情報セキュリティの強化	2026年3月	・セキュリティ研修受講率100% ・情報管理ポリシー遵守率100% ・セキュリティに対応出来る人材を2名育成 する

実るほど頭を垂れる 稲穂かな

「SECURITY ACTION」は、会社自らが、情報セキュリティ対策に取り組むことを自己宣言する制度です。

当社のセキュリティアクション二つ星宣言については、DX推進チームを中心に、情報セキュリティ自社診断を実施し現状を把握したうえで、情報セキュリティ基本方針の公表及びセキュリティ体制の構築を行い、必要な対策及び手続きを進めてまいります。

実るほど頭を垂れる 稲穂かな

東電化工業は、以下を実現するためにDX戦略を立案し実践してまいります。

「未来への挑戦と成長を加速するために」 東電化工業株式会社は、これまでの歩みの中で多くの方々の支えを受け、地域に根ざし、価値あるものづくりを通じて成長を続けてまいりました。今、私たちはさらなる飛躍のため、デジタルトランスフォーメーション（DX）という新たな挑戦に取り組んでいます。DXの推進は、単なる業務効率化やコスト削減を超え、私たちの経営基盤を支える「提案型企業」としての進化を目指すものです。時代の変化や多様な顧客ニーズに応えるため、デジタル技術の活用を通じて、品質・生産性・スピードを強化し、新たな価値を提供できる企業へと成長してまいります。私たちは、DXを通じて「全社的な最適化」を実現し、業務プロセスの革新とデータの一元管理による柔軟で効率的な体制を構築します。そして、全従業員がこの変革を支える一員として共に学び合い、挑戦することが企業文化として根付くよう努めていきます。また、地域社会に貢献する企業として、デジタル環境整備を推進し、持続可能な未来の実現に向けた努力を続けるとともに、皆様から信頼され、必要とされる存在であり続けることをお約束します。本戦略書を通じ、東電化工業株式会社の未来への指針と社員一人ひとりの決意をお伝えできることを大変嬉しく思います。DX推進への挑戦を糧に、全社一丸となって更なる成長を目指してまいります。

実るほど 頭を垂れる 稲穂かな

東電化工業株式会社
代表取締役社長 若泉 裕明